

相米慎二 監督 映画祭り

第9回



2025 8

30 土

上映作品

青森県田子町
タップコピアン
プラザホール

青森県三戸郡田子町大字田子字天神堂向 22-9

午前の部 10:45~
上映後、舞台挨拶

午後の部 13:20~
上映後、トークショー

1990年公開 109分



トークショーゲスト(来場予定)



俳優
中井貴一



衣装デザイナー
小川久美子



映画監督
榎戸耕史



映画監督
富樫 森

※都合により、出演が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

入場無料(全席自由)

入場整理券が必要です。

入場整理券をご希望の方は、往復はがきにてお申し込みください。申込者多数の場合は抽選となります。なお、未就学児のご入場はご遠慮いただきます。

申し込み締め切り

7月31日(木) 必着

原則として、入場整理券は当日会場受付でお渡しとなりますので、必ず当選はがきをご持参ください。

往復はがきの書き方

<オモテ>

039-0292	※ここには何も記入しないでください。(抽選結果を印字して返送します。)
往復	※住所不要 田子町役場 映画祭り・観覧係
返信の宛名面 (先方に残ります)	返信の文面 (戻ってきます)
□□□□□□	□□□□□□

<ウラ>

□□□□□□ ※郵便番号を記入	ご自分の ①お住まいの市町村名 ②お名前(ふりがな) ③携帯電話番号 ④午前又は午後希望 ⑤希望枚数 (1又は2枚)
返信の宛名面 (戻ってきます)	往信の文面 (先方に残ります)
□□□□□□	□□□□□□

※③の電話番号は日中連絡がつく場合、固定電話でも可。 ※午後希望の抽選にもれた場合、自動的に午前の抽選にまわります。 ※入場整理券はお一人様2枚まで。

青森県町村会「町村の魅力発信事業」活用事業 青森県田子町

後援 田子町教育委員会 / 公益財団法人にんにくネットワーク / 田子町観光協会 / 映画監督相米慎二を語りつぐ会

協力 青森映研 問い合わせ先 田子町役場政策推進課 TEL0179-32-3111



代表作「セーラー服と機関銃」などで知られる映画監督の相米慎二さん(2001年逝去)は、田子町との縁が大変深い方で、生涯独身であったことから、現在は町内にある先祖代々の墓で眠っています。

13回忌の際に、当町相米地区の慰霊碑前で「映画監督相米慎二をしのぶ会」が初めて開催され、町内外から多くのファンや関係者らが献花に訪れ、監督をしのびました。同時に「映画監督相米慎二を語りつぐ会」が結成され、相米監督を語りついでいこうという気運が高まりました。

これを受け、町では、映画監督相米慎二さんを「地域の魅力」と捉え、芸術文化の分野から新たなまちおこし活動を展開して、地域の元気につなげていきたいと考えました。今後は「映画監督相米慎二を語りつぐ会」の活動をサポートしながら、あらためて生前の功績をたたえ、『映画監督相米慎二』を見て・聞いて・学ぶことができるような機会を創出し、監督を知る方にも知らない方にも、今なお多くのファンや関係者らに愛されている魅力を発信していきたいと考えております。

相米慎二監督映画祭り

第1回(2014.8.30) 上映作品：セーラー服と機関銃

ゲスト 田中陽造(脚本家) 寺田農(俳優)

第2回(2015.8.29) 上映作品：翔んだカップル

ゲスト 伊地智啓(映画プロデューサー) 鶴見辰吾(俳優) 中村大吾(編集者)

第3回(2016.8.27) 上映作品：魚影の群れ

ゲスト 佐藤浩市(俳優) 藤井仁子(映画評論家)

第4回(2017.9.2) 上映作品：シヨンベン・ライダー

ゲスト 河合美智子(俳優) 原日出子(俳優) 木村建哉(成城大学准教授)

第5回(2018.8.25) 上映作品：雪の断章—情熱—

ゲスト 斉藤由貴(俳優) 榎木孝明(俳優) 小川富美夫(映画美術デザイナー)

第6回(2019.8.24) 上映作品：台風クラブ

ゲスト 三浦友和(俳優)

第7回(2022.8.20) 上映作品：光る女

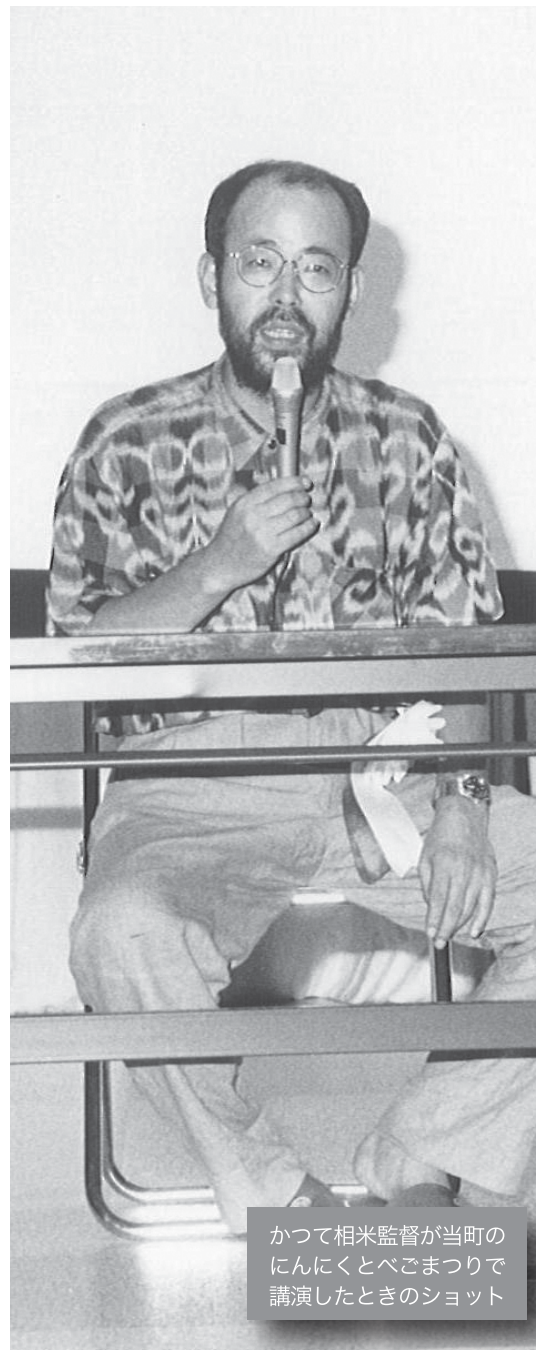
ゲスト 寺田農(俳優) 柄本明(俳優) 田中陽造(脚本家) 小川富美夫(映画美術デザイナー) 長沼六男(撮影監督)

第8回(2023.8.19) 上映作品：夏の庭

ゲスト 寺田農(俳優) 柄本明(俳優) 平川浩司(GMO ENGINE(株)代表取締役社長) 金原由佳(映画ジャーナリスト)

作品名	公開年
翔んだカップル	1980
セーラー服と機関銃	1981
シヨンベン・ライダー	1983
魚影の群れ	1983
ラブホテル	1985
台風クラブ	1985
雪の断章—情熱—	1985
光る女	1987
東京上空いらっしやいませ	1990
お引越し	1993
夏の庭 The Friends	1994
あ、春	1998
風花	2001

HISTORY



かつて相米監督が当町の
にんにくとべごまつりで
講演したときのショット

東京上空 いらっしやいませ あらすじ

キャンペーンの最中に、キャンペーンガール・ユウ(牧瀬里穂)は、スポンサーの好色な専務・白雪恭一(笑福亭鶴瓶)の魔手から逃れようと、自動車からとび出した。そこに後続の車が!

——哀れ、ユウの魂は東京上空へ。看板やらポスターやら、街にあふれる写真や音楽をそのまま残して……。

* * *

広告代理店の担当・文夫(中井貴一)や白雪たちは、事故をひたすら隠してキャンペーンを続けることにし、後始末に奔走する。

一方、天国に昇ったユウは「この世とあの世の案内人」という気のいい“担当死神”・コオロギ(鶴瓶・二役)——顔が白雪と同じなのだ。死に目に会った最後の人の姿を借りるのが、きまりらしい——をしっかりとだまして地上に舞い戻った。

しかも、事故の知らせを聞いて右往左往している文夫のマンションにあらわれたのだ。啞然としてうるたえる文夫。

ユウはユウで、戻ったものの、自分はもう死んでいることになっている。

家にも帰れず、学校にも行けない……。

* * *

文夫は、どこにも帰れないユウと同居しながら、ユウの事故死の後始末をするために。

だまされたと思ったコオロギは、ユウに付きまといながら、あの世へ連れ戻そうと、説得したり、おどしたりし始める。

それでもユウはけなげに、あたらしい自分として一から生きてゆこうとガンバルのである。

文夫はそんなユウがいじらしくなってきた。このままユウを抹殺してしまうのが、耐えられなくなってきた。

とうとうユウの「復活」に賭けようと、文夫は立ち上がった。

* * *

文夫は、死んだはずのユウを連れて、ヌケヌケと白雪の前にあらわれ、茫然とする白雪に取り引きをもちかけた……。

(※当時発行のパンフレットより転載)